

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 3 回 松阪市教育ビジョン検討委員会
2. 開 催 日 時	令和 7 年 6 月 24 日(火)午後 1 時 30 分～午後 3 時35分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局 2 階 教育委員会室
4. 出席者氏名	(委 員)◎谷口委員、○奥村委員、西村委員、川端委員、松岡委員、鈴木(寛)委員、保田委員、福田委員、光山委員、鈴木(久)委員、服部委員、西尾委員(◎委員長 ○副委員長) (事務局)若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、三田学校教育課長、協葉参事兼学校支援課長、中西子ども支援研究センター所長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 教育総務課 電 話 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- (1) 施策シートについて(学力の育成・キャリア教育の推進・生徒指導の充実・安全教育の推進・防災教育の推進・食育の推進・地域とともにある学校づくり 計 7 施策)
- (2) 本日の検討内容
 - ① 誰もが健康で、持続可能な未来を築くための多様な教育の推進に向けて
(④グローバル教育の推進、⑦特別支援教育の推進、⑫環境教育の推進、⑯体力の向上)
 - ② 質の高い教育を支えるための学校環境の最適化に向けて
(⑩教職員が働きやすい環境づくり、⑪教職員研修の充実、⑭学校施設の充実)

議事録

別紙

【第 3 回 松阪市教育ビジョン検討委員会 会議メモ】

1. 日 時 6 月 24 日(火)午後 1 時 30 分～午後 3 時35分

2. 場 所 松阪市教育委員会事務局 2 階 教育委員会室

3. 出席者

委員：谷口委員、奥村委員、西村委員、川端委員、松岡委員、鈴木(寛)委員、保田委員、
福田委員、光山委員、鈴木(久)委員、服部委員、西尾委員

事務局：中田教育長、若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、三田
学校教育課長、脇葉参事兼学校支援課長、中西子ども支援研究センター所長

4.内 容

1.あいさつ

2.協議事項

(1) 施策シートについて(学力の育成・キャリア教育の推進・生徒指導の充実・安全
教育の推進・防災教育の推進・食育の推進・地域とともにある学校づくり
計 7 施策)

(2) 本日の検討内容

①誰もが健康で、持続可能な未来を築くための多様な教育の推進に向けて
(④グローバル教育の推進、⑦特別支援教育の推進、⑫環境教育の推進、
⑯体力の向上)

②質の高い教育を支えるための学校環境の最適化に向けて
(⑩教職員が働きやすい環境づくり、⑪教職員研修の充実、⑭学校施設の充
実)

内容は以下のとおり

開会 司会

(1) 施策シートについて
(事務局から説明)

～3 学力の育成について～

委員

自分から学びに向かう主体性が大事だと思います。「今後の方向性」の第 1 段落に「多
様で豊かな体験活動等をしながら非認知能力と言われる学びに向かう力を育成する」と
いうのがしっかり書いてあり、そういった教育を進めていくのはすごく大事だと思いま
す。

「取組内容」の 4 つ目に「個別最適や一人一人の個性を大切に、学校だけでなく家庭
や地域で様々な人と出会う豊かな体験活動を通して、その子の持っている可能性を開
花させていく」というのが盛り込まれていていいなと思いました。

意見としては、学校・家庭・地域のフレーズが良く書かれていますが、地域のイメージが持ちづらいなと思います。地域や関係機関との連携として、具体的な取り組みが想定しにくいです。

委員長

「非認知能力」という言葉の意味を教えてください。また具体的な地域のイメージができる連携について教えてください。

学校支援課長

「非認知能力」とは意欲・興味・関心・勤勉さ・自己肯定感・思いやり・粘り強さといった試験等で測ることができない能力のことです。

またここに書いてある地域とは、それぞれの取組によって変わってきます。例えば防災教育の際には、自治体や住民自治協議会といった地域と協力します。子どもたちがいろんな場所に行って探究学習をする場面では、地元の企業さんといった地域と協力します。安全教育にあたっては、学校ボランティアという地域に協力していただき、日常の安全を確認します。また、その他の学習では、自分の校区外の市内や、市外も学習内容によって地域になります。学習内容によって地域のイメージは変わってきます。

～11 キャリア教育の推進について～

委員長

「評価指標」のところで、職場体験や職場見学を行っている学校の割合が令和6年から令和10年にかけて、飛躍的に高い目標にしていると思います。現状としてこのように目標値に近づけているという話がありますか。

学校支援課長

今、わくわくワークといった職業体験を各中学校が行っています。昨年度ですと、中部中学校で2日、大江中学校で3日、東部中学校で1日、飯高中学校で3日行っています。殿町中学校におきましては、マラソン大会に地域貢献活動として参加しました。鎌田中学校については、地域の企業に来ていただいて、職業について講話をしていただきました。久保中学校はわくわくスクールを実施し、7事業所にご協力いただく等、地域や学校の実態に合わせた多様な形での職業体験を行っております。

委員

わが社の工場見学は年々増えてきています。わが社では見学だけでなく、触れていいものを用意したり、天気の良い日は食堂で食べたりといったことも行っています。キャリア教育というのは素晴らしい今後の方向性だと思います。

私たちは子どもの頃から夢を語ってきましたが、今の子どもたちは夢がない子がほとんどです。夢を語れる子どもたちを育ててほしいです。

委員

夢とか目標を子どもたちが持てるためには、豊かな経験をしている人、ここにいらっしゃるような仕事を頑張っている人に出会うことが学校教育では大事だと思います。

「今後の方向性」の 2 段落目に「それぞれにふさわしいキャリアを育むため、地域住民や地域の人材や企業等と連携し、地域の特色を生かしながら体験的な学習が充実したキャリア教育を進めていきます」という一文があります。地域住民、地域の人材や企業という具体的に地域のイメージを持ちやすく、こういった地域と連携することで、キャリアを育むための教育は実現するのだと感じるいい文章であるなと思いました。

～13生徒指導の充実について～

委員

「取組内容」の 4 つ目の Q-U とは何か教えていただきたいです。また、児童それぞれの満足度を加味するというのは一律ではないと思うのですが、望ましい学級づくりとはどんな学級を目指しているのか教えていただきたいです。

学校支援課長

Q-U とは楽しい学校生活を送るための、学級に対する満足度と意欲を中心に測る子どもの満足度調査のことです。またここでいう望ましい学級とは、子どもたち一人一人が各クラスで認められていて、プラス意識を持って人と関わることができる学級のことです。

委員長

Q-U の質問項目は何項目ありますか？

学校支援課長

質問項目は相当多いです。学校生活意欲尺度と、学級満足度尺度の 2 つの尺度によって、測られるものです。教師が普段の学級経営が上手くいっているか、普段の子どもたちの肌感覚等から Q-U によって気づき、目指す学級像と実際の学級とのズレを修正しています。

委員

年何回行われますか。

学校支援課長

年 2 回です。

委員長

発達段階によって Q-U は違いますか。

学校支援課長

はい、学年によって問題数や問題内容は変わってきます。問題数は 20～30 問ぐらいで作られています。

委員長

教員が客観性を持てるのは、独りよがりになってしまいがちな学級づくりにあたって、とてもいいと思います。

委員

目指す学級像と実際の学級とのズレというのは、教員自ら自己診断するのですか。

学校支援課長

はい。先ほど言った通り、子どもたち一人一人が書いてきたアンケート結果が出てきます。それぞれの子どもたちが「認められたらな」とか、「傷つけられてないな」とか、「傷つけられているな」とか、地図みたいになって一人一人の位置が、示されて返ってくるわけです。そうすると、教員は子どもたちが満足する学級を作っているはずだったが、満足していない子がたくさんいるとかいうふうな状態が見え、ズレに気づきます。

子どもたちが満足していないというのを客観的に見て、「学習面で意欲がない」とか、「友達関係で慣れ合い関係がある」とか、子どもたちはどういうことで満足していないかが見えてきます。友達関係に働きかけていこうとか、学習面でもっと意欲を持てる授業に工夫しようとかいうふうに、ズレを修正するわけです。

委員長

評価指標は厳しい部分がありますね。「不登校児童生徒が、教職員以外の支援や指導を受けている割合」を見ると、そう簡単にはいかないのだなというふうに感じます。親御さんの思い等もあるのかなと思います。

～14 安全教育の推進について～

委員

「取組内容」の 4 つ目のところで、学校と CS が並んでいますが、CS は学校運営協議会を設置した学校のことなので、この使い方は違うと思うので訂正すべきだと思います。

～15 防災教育について～

委員

防災対策の仕事をしていて、輪島市の教育長とお話をする機会がありました。「地震か

ら命を守ることを考え、地震後に子どもたちをどうやって守っていくのかを考えられていなかった」との話でした。1 月だったので中学 3 年生の受験生が勉強できる場所がないとのことで、子どもたちは居場所がないことに不安にもなりました。地震が起きて身を守ることが一番大切ですが、その後のことも考えられるとさらにいいと思います。

また防災マニュアル等を見ると、南海トラフ地震の前段階の東海地震という表現があり、表現の古いものが見受けられます。マニュアルの点検という言葉がありますが、実態に沿っているかどうか確認していただきたいです。

委員

避難訓練はそれぞれの場所によって行う内容は違いますか。

学校支援課長

それぞれの学校によって避難訓練の内容は違います。

委員

学校の避難訓練の頻度はどのようなものですか。

学校支援課長

年に複数回、すべての学校のそれぞれの特性に応じた訓練をしています。すべての学校で地震を想定した訓練をやっていますが、他にも火災や津波の訓練、実際に保護者の方に来ていただく引き渡し訓練等、それぞれの学校の特性に合わせて行っています。

委員

年に複数回とは具体的に決まっていたりしますか。

学校支援課長

回数は毎年見直していただきたい 3 回から 5 回ほど、すべての学校で行っています。各学校で危機管理マニュアルを作成し、学校支援課で把握しています。先ほど頂いた意見などもチェックし、県の指針にも合わせてマニュアルを変え、毎年見直しています。

委員

学校ではだいたい 5～6 回はしています。火事・地震・台風・不審者等を想定した訓練をしています。地域と一緒に防災訓練したり、学校から安全に子どもを保護者の方に引き渡す訓練をしたり、いろいろ行っています。

松ヶ崎小学校であれば津波が来ることを想定して、みんなでアピタに逃げる訓練を地域の方としております。朝見小学校では液状化が心配なので、こういった場合はどうするか、職員と話したり、地域の方からいろんなことを教えてもらったりしております。

これから先学校再編になったときに、広域になり、バス通学の子が増えます。こういっ

た子どもたちを災害等から守るために、地域だけでなく関係機関と協力し、先ほど言っていたように災害の事前・最中・事後それぞれどのような対応が必要かを考えていく必要があると思いました。

～18 食育の推進について～

委員

「評価指標」のところで、朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合とありますが、どうしても家庭に起因するものがすごく大きいと思います。これまでの評価指標は子どもたちや学校の努力で何とかなるものがほとんどでしたが、家庭の努力なしでは達成できない評価指標で、難しいなと思いました。

委員長

家庭への啓発という部分で限界を感じる部分もあると思うのですが、そういった部分はどのように考えていますか。

学校教育課長

コロナが明けてから生活習慣が乱れ、朝食を食べる割合が減りました。いろんな生活背景はあると思いますが、学校で食育を推進・定着し、子どもたちにまず力をつけ、家でもそういった話をする機会が持てるようにしていきます。

食育については教員だけでなく、栄養教諭や養護教諭、学校全体で取り組んでいかなければいけない分野で、以前に比べると教育の中でも重要性が大きくなっています。丁寧に継続して食育に力を入れていきます。それが将来の自分の健康に繋がっていくのだというように粘り強くやっていかなければいけません。また別の方向で、給食だより等いろんな形で伝えられるよう工夫していかなければいけないと感じております

委員

ネットが流行っている中で、食品添加物の誤情報も多いです。誤情報が多い中で、学校が一番正確な情報を伝えていくのが、大事だと思います。朝食を食べることの重要性など、誤情報に騙されないような知識の形成に力を入れてほしいです。

～19地域とともにある学校づくりの推進について～

委員

「取組内容」の4つ目で「コーディネーターや学校運営協議会委員を対象に交流会や研修会などを実施し、コーディネーターの資質向上及び」と記載があるのですが、資質向上を目指すのはコーディネーターのみですか。学校運営協議会委員は含まれないのですか。

それと松阪市では、学校教育目標を目指す子ども像を見据えて作っていることが特色

だと思います。全市的にそうではないので、「目指す子ども像の実現に向けて教育を取り組んでいる」というのが伝わるように、「目指す子ども像」のフレーズを入れていただくと松阪市らしさが出ると思います。

学校支援課長

先ほどの「取組内容」の部分はコーディネーターだけでなく、学校運営協議会委員の方も含めた表現です。

委員長

少し誤解が生じるような表現だという指摘ですね。またここもご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。

委員

全体に関わってですが、「評価指標」の現状値・目標値について漠然とした数値の時と、小数点まで詳しく書いてある数値の時があります。なぜこのように数値の書き方が異なるのか説明があるといいと思います。

二次元コードが新しい取り組みとして導入されているのが、いいなと思いました。随時、最新の情報を入れられますし、ここだけでは言い表せないこともプラスで書けますし、二次元コードをうまく活用していく工夫が必要だと感じました。

委員長

協議事項(1)施策シートについての話し合いはここまでとします。今回の施策シートの内容は、9月に全教育施策の修正シートが一括して提示されます。

(2) 本日の検討内容

- ①誰もが健康で、持続可能な未来を築くための多様な教育の推進に向けて
(事務局から説明)

～16体力の向上について～

委員

体力の向上のところで、部活動の地域移行の話や、部活動がなくなるのではないかという話をよく耳にします。部活動ではなく、地域のクラブチームにお金を払って参加している子が多い実態もあります。今学校の部活では土日は半日しかできないが、地域のクラブチームであれば土日もあります。こういった格差はどうしていきのかが気になります。

学校教育課長

これまでは教員だけで行っていた部活動指導を、地域連携して行っています。学校以

外での地域のスポーツクラブが増えてきて、中学校の部活動指導の過渡期が来ている状況です。松阪市としては部活動のガイドラインを新しく作成し、中学校の部活動以外に、地域クラブも同じ大会にでることを認めています。しかし中学校のこれまでの部活動を大事にし、子どもを真ん中におき、部活動においても経済的格差が教育格差に繋がらないよう、時間をかけながら、中学校の部活動指導の充実を図っている状況です。

委員

大人は過渡期という言葉を使いますが、子どもたちにとってはその時期しか中学校の部活動を行えません。早めにみんなが安心して部活動が行えるようにしていただきたいです。

～7特別支援教育について～

委員

特別支援教育のところで、表の下に「今後は、作成が必要と思われる児童生徒、全ての作成をめざしています。」の一文があります。これは「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が必要と思われる児童生徒でも、作成されていないことが現状としてあるということでしょうか。

学校支援課長

特別支援学級に在籍する子どもたちは全員「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が作成されています。通常学級にいて、特別支援が必要な子どもたちについては、これからこれらを作成していく必要があるということです。

委員

「副籍」を松阪市全体でやっていこうというのが、いい取り組みだと思いました。仕組みができて、内容を充実させていく必要があります。地元の学校の子どもたちと特別支援学校の子どもたちとの交流学习は以前からありました。これらの交流学习がさらに充実した取組になるよう、特別支援教育の交流学习は前からあったが、自分も工夫していかなければいけないと思いました。

～4グローバル教育の推進について～

委員長

ALTとESTの用語の意味はどう違いますか。

学校支援課長

ALTはアシスタント・ランゲージ・ティーチャーで外国語指導助手の略です。ESTはイングリッシュ・サポート・ティーチャーで小学校英語指導助手の略です。ALTの方が「ネイティブ」で、ESTの方が「母語が日本語でも英語ができる方」というイメージです。

～4 グローバル教育の推進・12 環境教育について～

委員

教育大綱、教育ビジョンの柱が Well being で、すべての人が幸せとなっています。子どもが幸せで、その子どもに関わる人達も幸せにという教育を実現するには、地域総ぐるみで、生涯教育をしていく必要があります。グローバル教育であれば留学を行った高校生や大学生の話を聞き、環境教育であれば熱心に取り組んでいる企業と連携する。そういった今まで以上にいろんな団体、広い意味での地域と協力して、子どもたちの教育を豊かにしていくことが大事だと思いました。

② 質の高い教育を支えるための学校環境の最適化に向けて

～22 学校施設の充実について～

委員

朝見小学校で校長をしていて、再編活性化をしております。来年には近隣の 3 つの小学校在朝見小学校の施設を使って、勉強していきます。

教育ビジョンで学校施設の充実として、防災・バリアフリー・学校を核とした地域づくりという視点から考えることができるなと思いました。鎌田中学校の視察で交流スペースを見て、地域の人・ボランティアの人・不登校の子・特別支援の子、いろんな方が入れる交流スペースを作っていきたいと思いました。

学校施設の充実に不登校・特別支援・地域の 3 つの視点も入れていただけると、子どもたちにとっても、子どもたちを取り巻く大人にとっても、豊かな学校環境が整備されるのかなと思いました。

委員長

建設年度がよく似た時期ということもあり、一気に建て変えていくというのは難しいと思います。大規模改修は難しいが、小規模改修や小規模増築で少しでも施設を良くしていくというのでもいいなと思いました。

委員

朝見小学校は空き教室がないほどパンパンです。学校によっては少し教室の空きに余裕があるところもあると思いますし、その学校の現状に沿ってバランスも考えながら、計画的にいろんなことを進めていただきたいと思います。

～20 教職員が働きやすい環境づくり・21 教職員研修の充実について～

委員

20 教職員が働きやすい環境づくりのところで、「時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員のすべての教職員に対する割合の推移」が、令和 2 年度と 6 年度の比較で、小学校で 1.5%減、中学校で 5.7%増となっています。小学校が減って、中学校が逆に

増えた理由を教えてください。

また＜今後の取組＞で「働きやすさと働きがいの両立」とあるが、教員の声がどのように活かされているのか教えてください。

21 教職員の研修の充実について、主体的に研修に参加するというのはそのような環境が現場として実際整っているのか、教えてください。

学校教育課長

20 教職員が働きやすい環境づくりのところで、「時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員のすべての教職員に対する割合の推移」が、中学校で増えているのは部活動の面が関係しているのかと考えられます。ここは色々と考えていく必要があると思っています。

「働きやすさと働きがいの両立」の部分では、やらされているわけではなく教員たち自らが「こうしていこう」という工夫を行い、松阪市ではモデル校という形も築き、働き方改革を進めています。教員の質を落とさずに、働き方改革をしていかなければいけません。

21 教職員の研修の充実についてですが、20 教職員が働きやすい環境づくりの写真にあるように働き方に関する研修会を学校で行ったり、オンラインで研修を行ったり、教職員が参加しやすいような環境を作っております。

委員

教職員の質は下がってはいけません。オンライン会議も可能で、気軽に参加できるように研修を設置していただいているのもありがたいです。20 教職員が働きやすい環境づくりの「更に働き方改革を進めるために」の②更に学校および教職員が担う業務の明確化と適正化と書いてあるように、私たちも教育の質を下げずに教育を頑張っていこうと思います。

委員長

ZOOM でオンライン会議が出来たり、オンデマンドで時間が空いた時に見られる研修があったり、そのような自由度のある研修体制をとってもらっているのはいいなと思います。

子ども支援研究センター所長

主体的な研修環境をということで、オンデマンド・遠隔でのオンライン・実際に集まる研修という形があります。研修といたしましては、市町県国がやっているものもあれば、校内研修もありますし、自主的なサークルの集まり、企業が行っているセミナー等があります。子ども支援研究センターは松阪市の課題を踏まえ、挑戦してもらいたいことなども考え、講座の講師を選んでいきたいです。研修はインプットとアウトプットのバランスも大事で、広く皆さんに学んでいただける環境を整えていきたいと思っています。

委員

鎌田中学校では教室に掲げているスローガンに先生の名前が入っていて、先生との関係が良好であることがわかりました。4月からの短い期間で先生と生徒の関係性が上手く築き上げられていることに驚きました。同時にそういった人間関係作りは先生にとってプレッシャーに感じることもあると思うので、先生方へのケアが大事なんだと強く思いました。

委員長

そのように子どもたちといい関係を築き上げられると、先生にとってよいモチベーションになりますね。

話は変わりますが、先生が疲弊するのは保護者からのクレームです。働きやすさを追求するという意味で、学校へのクレームはまずここへ電話してくださいといった窓口を作ることができればいいなと思います。

委員

働き方改革でいろんな話を聞かせていただきましたが、人を増やせばいいのではと思います。部活動を土日も行いたいというのも、教員を増やせば解決することだと考えます。教員を増やして教員にとって余裕ができれば、より良い教育の実現にも繋がると思っています。

委員

資料に書いていただいていることと、実際に現場で生かしていけることは違うと思うので、検証していく必要があると思いました。

委員

学校の先生方、毎日限られた時間の中、研修等も活用し上手く勉強されているのがすごいなと思いました。

委員長

様々な立場からのお話をありがとうございます。委員の皆様、本日はありがとうございました。

(以上で終了した。15:35 終了)